

2024 年度災害科学共創センター研究成果要旨  
衛星安否確認サービス Q-ANPI の避難所での利用方法の研究

此松昌彦・栞将倫・太田和弘

【概要】内閣府では準天頂衛星みちびきを利用した衛星安否確認サービス「Q-ANPI」が稼働している。これは災害時における避難所の情報を、送信し収集する手段として利用できるサービスである。しかし自治体によると孤立が想定される中山間地域では高齢者が多く、パソコンを使えない住民が多く、利用しにくいとの課題があった。

そのため本プロジェクトにおいては、もっと利用を促進するための手段として、地域には高校生が存在することから、避難所においては Q-ANPI の利用を率先して行いやすいのではという仮説のもとで、Q-ANPI 利用の実証実験を行い、意義を知ってもらい、使いやすさについて調査することを目的とした。

具体的には 2025 年 2 月 4 日に県立串本古座高校（串本町）の宇宙探究コースの 16 名に出前講義を行い、さらに 2 月 14 日に県立向陽高校（和歌山市）の 70 名に行った。災害時の避難所や衛星についての役割の座学と Q-ANPI の機材の組立と通信実験を行った。

【成果と課題】

生徒にアンケート調査をしたところ、避難所への関心が高く、衛星安否確認サービス「Q-ANPI」に対して好意的な意見が多かった。機材の組み立て時間も一般の大人が行う時より短い時間で行い、自分でできるという回答も多かった。このように高校生においては無理なく扱うことができている。

将来的には自治体で行う防災訓練において、高校生も参加して Q-ANPI を利用した防災訓練を実施したいと考えている。



出前授業（Q-ANP 実践編 アンテナの組み立て）向陽高校にて